

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #20 Top 10 Japanese Songs: Tsubasa o kudasai/Give Me Wings

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 6 Grammar

20

KANJI

1. 翼をください
2. どここの国でも楽曲は日々生まれ、そして消えていきます。
3. そんな中でこれまで紹介してきた九曲は、時代の波に洗われてもなおその輝きを失わず、多くの日本人に支持されている歌。必然的にその誕生は古いものばかりになってしまいましたが、今回は比較的新しい曲を取り上げましょう。と言っても今から約40年も昔の歌です。
4. 『翼をください』が発表されたのは1971（昭和46）年。その数年後から音楽科の教科書に掲載されるようになり、四、五十代以下の世代は誰もが合唱曲として歌った思い出のある曲です。
5. 大空への憧れが綴られている歌詞は山上路夫（やまがみみちお）によるもの。やや哀愁を帯びた伸びやかなメロディは村井邦彦（むらいくにひこ）の作品です。二人とも昭和の歌謡界で活躍し、幾多のヒット曲を残しています。
6. さて、この曲は、フォークソングを歌うグループ「赤い鳥」が初めて歌ってからというもの、実に多くのアーティストにカバーされていることでも有名です。青春時代の感傷...今いる環境から自由な世界である大空へと羽ばたいていきたい...という若者の思いを表現しているこの曲は、聞き手だけでなく歌手をも魅了する歌であることが分かりますね。
7. 原曲を聞く前に、英語バージョンを聞いてみたい人は、Gayle Caldwellが手がけた英訳詞の『I Would Give You Anything』がありますので、そちらをどうぞ。

KANA

1. つばさをください

CONT'D OVER

2. どこのくにでもがっきょくはひびうまれ、そしてきていきます。
3. そんななかでこれまでしょうかいしてきた9きょくは、じだいのなみにあらわれてもなおそのかがやきをうしなわず、おおくのほんじんにしじされているうた。ひつぜんてきにそのたんじょうはふるいものばかりになってしまいますが、こんかいはひかくてきあたらしいきょくをとりあげましょう。といってもいまからやく40ねんもむかしうたです。
4. 『つばさをください』がはっぴょうされたのはせんきゅうひゃくななじゅういちねん(しょうわよんじゅうろくねん)。そのすうねんごからおんがくかのきょうかしよにけいさいされるようになり、し、ごじゅうだいいかのせだいはだれもががっしょうきょくとしてうたったおもいのあるきょくです。
5. おおぞらへのあこがれがつづられているかしはやまがみみちおによるもの。ややあいしゅうをおびたのびやかなメロディはむらいくにひこのさくひんです。ふたりともしょうわのかようかいでかつやくし、いくたのヒットきょくをのこしています。
6. さて、このきょくは、フォークソングをうたうグループ「あかいとり」がはじめてうたってからというもの、じつにおおくのアーティストにカバーされていることでもゆうめいです。せいしゅんじだいのかんしょう...いまいるかんきょうからじゆうなせかいであるおおぞらへとはばたいていきたい...というわかもののおもいをひょうげんしているこのきょくは、ききてだけでなくうたいてをもみりようするうたであることがわかりますね。
7. げんきょくをきくまえに、えいごバージョンをきいてみたいひとは、Gayle Caldwellがてがけたえいやくしの『I Would Give You Anything』がありますので、そちらをどうぞ。

ROMANIZATION

1. Tsubasa o kudasai

CONT'D OVER

2. Doko no kuni de mo gakkkyoku wa hibi umare, soshite kiete ikimasu.
3. Son'na naka de kore made shōkai shite kita kyū-kyoku wa, jidai no nami ni arawarete mo nao sono kagayaki o ushinawazu, ōku no Nihonjin ni shiji sarete iru uta. Hitsuzenteki ni sono tanjō wa furui mono bakari ni natte shimaimasu ga, konkai wa hikakuteki atarashii kyoku o toriagemashō. To itte mo ima kara yaku yon-jū-nen mo mukashi no uta desu.
4. "Tsubasa o kudasai" ga happyō sareta no wa sen kyū-hyaku nana-jū ichi-nen (shōwa yon-jū roku-nen). Sono sūnen go kara ongakuka no kyōkasho ni keisai sareru yō ni nari, shi, gojū-dai ika no sedai wa dare mo ga gasshōkyoku to shite utatta omoide no aru kyoku desu.
5. Ōzora e no akogare ga tsuzurarete iru kashi wa Yamagami Michio ni yoru mono. Yaya aishū o obita nobiyaka na merodi wa Murai Kunihiro no sakuhin desu. Futari tomo shōwa no kayōkai de katsuyaku shi, ikuta no hitto kyoku o nokoshite imasu.
6. Sate, kono kyoku wa, fōku songu o utau gurūpu "akai tori" ga hajimete utatte kara to iu mono, jitsu ni ōku no ātisuto ni kabā sarete iru koto demo yūmei desu. Seishun jidai no kanshō... Ima iru kankyō kara jiyū na sekai de aru ōzora e to habataite ikitai... to iu wakamono no omoi o hyōgen shite iru kono kyoku wa, kikite dake de naku utaitte o mo miriyō suru uta de aru koto ga wakarimasu ne.
7. Genkyoku o kiku mae ni, Eigo bājon o kiite mitai hito wa, Gayle Caldwell ga tegaketa eiyakushi no "I Would Give You Anything" ga arimasu node, sochira o dōzo.

ENGLISH

1. "Tsubasa o kudasai"
2. Every day, in countries all over the world, songs are created, and songs disappear.

CONT'D OVER

3. In the midst of this, the nine songs that I have introduced up until now are all songs that, despite being tossed on the waves of the times, have never lost their radiance but continue to be cherished by many Japanese people. Inevitably, all of these songs are songs that were created a long time ago, but this time we're going to look at a relatively recent song. Having said that, it's a song from around forty years ago now.
4. "Give Me Wings" was released in 1971 ("Shōwa" 46). A few years after that, it was published in a music textbook. It's a song that anyone under the age of forty to fifty will have memories of singing in a chorus.
5. The lyrics, which express a longing for the open sky, are by Michio Yamagami. The carefree melody, which is also slightly tinged with pathos, was composed by Kunihiko Murai. Both men were active in the "Shōwa" era popular music world and created many hit songs.
6. Now, although this song was first sung by a folk group called Red Bird, it is also famous for having been covered by many different artists. The emotions of one's youth...the feeling of wanting to take off from the world you're in now into the unconstrained world of the open sky... You understand why this song, which expresses the thoughts of a youth, such as these, is entrancing not only for the listener but also for the singer.
7. For those who wish to listen to the English version before hearing the original, there is Gayle Caldwell's version with English lyrics called "I Would Give You Anything."

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
必然的に	ひつぜんてきに	hitsuzenteki ni	inevitably, naturally
合唱曲	がっしょうきょく	gasshōkyoku	a choral song
哀愁	あいしゅう	aishū	sadness, pathos, melancholy, sorrow
幾多	いくた	ikuta	many, numerous
感傷	かんしょう	kanshō	sentiment, sentimentality

綴る	つづる	tsuzuru	to spell, to write out
比較的	ひかてき	hikakuteki	comparatively, relatively

SAMPLE SENTENCES

<p>電話の発明は当時の状況から見て、必然的に起こったものだ。 <i>Denwa no hatsumei wa tōji no jōkyō kara mite hitsuzenteki ni okotta mono da.</i></p> <p>The invention of the telephone naturally occurred under the circumstances of that time.</p>	<p>中学生の時に、合唱曲を歌うことが多い。 <i>Chūgakusei no toki ni gasshōkyoku o utau koto ga ōi.</i></p> <p>In junior high school, it's common to sing choral songs.</p>
<p>哀愁ただよう曲を聞きたい気分だ。 <i>Aishū tadayou kyoku o kikitai kibun da.</i></p> <p>I feel like listening to a song of sorrow.</p>	<p>このプロジェクトは、幾多の試練に遭遇した。 <i>Kono purojekuto wa ikuta no shiren ni sōgū shita.</i></p> <p>I faced to a lot of challenges with this project.</p>
<p>昔の音楽を聞いて、感傷に浸りたい。 <i>Mukashi no ongaku o kiite kanshō ni hitaritai.</i></p> <p>I want to listen to old songs and immerse myself in sentimentality.</p>	<p>心に湧き上がったことを綴る。 <i>Kokoro ni wakiagatta koto o tsuzuru.</i></p> <p>I write what comes to my mind.</p>
<p>このレストランの食事は、比較的美味しい。 <i>Kono resutoran no shokuji wa hikakuteki oishii.</i></p> <p>The food in this restaurant is relatively good.</p>	

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第4シーズン第20課 「翼をください」

Yuichi: こんにちは ゆういちです

Natsuko: なつこです。今回取り上げる歌は？

Yuichi: 中学校の合唱などで良く歌われる曲ですね。タイトルは「翼をください」です。

Natsuko: では、早速ブログを聞いてみましょう。

Natsuko: 今回のブログで紹介した「翼をください」という歌は比較的新しい曲ですよ。ゆういちさんは、この歌は知っていますか？

Yuichi: はい、小学校の頃に合唱で歌っていました。

Natsuko: あ、小学校で歌うんですね。私は確か中学校の時に合唱コンクールの課題曲だった覚えがあります。

Yuichi: なるほど。じゃ、やっぱりお互い小中学校で歌っているという歌ですね。この歌の歌詞なんですけれども、

私の背中に翼をつけてください。自由な空に飛んで生きたいから。お金とか名誉とかそんなものはいらぬから、悲しみのない空に飛んで行きたいんだ・・・というような歌詞の歌です。

Natsuko: 今言ったように、小学校、中学校の合唱でよく歌われる曲なんですけど、歌詞の意味を考えると、気持ち的にももう少し大人の心情を歌っているような感じもしますね。

Yuichi: そうかもしれないですね。僕が小学生の頃はそんな意味とか全然知らなかったんですけど、そう考えると、この歌を小学校の時に歌っているっていうのはなんかすごい違和感がありますね。

Natsuko: そうですね。なんでかという、やっぱりこの歌はもともと合唱のために書かれたんじゃないかとフォークソングだったそうなんです。

Yuichi: ブログにも書いてありましたね。

Natsuko: 書いてありましたが。それにしても、こういうタイプの歌を教育現場で教える・・・というのも良く考えると不思議じゃないですか。

Yuichi: といいますと？

Natsuko: だって、ある意味、この歌は軽い社会風刺と取ることもできますよね。「自由で悲しみのない空に飛んでいきたい」「お金とか名誉なんかいらぬ」って事は、裏を返せば「今の世の中は自由じゃないし、悲しみがたくさんある」・・・ってことだし、「お金とか名誉とかが一番大切だと思っている人が多い」・・・ってことですからね。

Yuichi: そういわれると・・・

Natsuko: ちょっと深読みしすぎですかね。

Yuichi: あ、でも、そういう意見を聞いた事がある気がしますね。「この歌は現実から目をそむける。。。つまり現実逃避の歌だから、小学校、中学校の合唱にはふさわしくない」と言われているそうです。

Natsuko: あ、そうなんですか。賛否両論ある歌なんですね。

Yuichi: あと、リスナーの中には詳しい方がいるかもしれませんが、「エヴァンゲリオン」とか、あと「けいおん」というアニメにもこの曲は使われたそうです。

Natsuko: そうなんですか。アニメにも登場しているんですね。それだけ有名な歌だということですよ。

Natsuko: ということで、今回は学生の合唱曲としても有名な「翼をください」という歌でした。このレッスンで歌のシリーズは終わりなんですよ。

Yuichi: そうなんですよー。さみしいですね。

Natsuko: そうですね。いろんな歌がありましたけど、ゆういちさんにとって、心に残っている曲ってありますか？例えば、このシリーズで取り上げていない曲でもいいんですけど。

Yuichi: 心に残っている曲っていうと、実はあんまりないかな、と。ですけどですね、色々歌があった中で普段はもう今聞くことがないんですけども、このブログを通してもう一度聞くことで、あ、そういえばこういう歌知ってる…ということで、すごい、歌詞とかも思い出したりして、すごい懐かしかった感じがします。

Natsuko: そうですよ。小さい頃に覚えた歌って、もうとにかく歌詞とか丸暗記してるから、改めてどういう意味の歌詞なのかを考えることって少ないんですけど、それをこうやってきちんとブログで書いて、こういう意味のこういう背景の歌ですっていうのを習うと、すごく新鮮な感じしますね。

Yuichi: そうですね。まさに今日この「翼を下さい」なんていうのは小学校の頃には全然意味が分かかっていませんでした。

Natsuko: そうですよ。歌詞覚えて歌うだけですもんね。

Yuichi: なつこさんはなにかこう、感銘を受けた歌というのはありますか。

Natsuko: そうですね、感銘を受けたというか、やっぱり昔から歌っている歌っていうのはいくつになっても歌うと懐かしい気持ちができるなと思いますね。「ふるさと」なんかも特にそうですし、「翼を下さい」なんかも、聞くと、合唱で歌っていた頃のことを思い出しますもんね。

Yuichi: やっぱり日本人にとって懐かしい歌、ということでぴったしの選曲だったんじゃないかなと。

Natsuko: リスナーの皆さんはどうですか？皆さんの思い出に残っている曲はなんですか？

Yuichi: 是非教えてください。

Natsuko: 今までこの歌のシリーズを聞いてくださりどうもありがとうございました。

Yuichi: ありがとうございました。それではまた、どこかでお会いしましょう。 **Natsuko:** さようなら。